

はじめに

当調査は、感染症対策として各市町村の予防接種に関するデータを基に、生年別接種者割合や接種完了率等を解析しその結果を提供することで、各市町村の効果的な予防接種事業の実施に役立ててもらふことを目的として行っています。

本年度調査では、各市町村が令和 5 年度に実施した定期予防接種の接種者数について生年別の集計を実施しました。集計結果を基に、各予防接種の生年別接種者割合及び生年別接種完了率について算出し、本資料集としてまとめています。なお、本年度調査では、近年の各市町村の予防接種実施状況を踏まえた上で集計項目の設定についての見直しを行い、痘そう及びヒトパピローマウイルス感染症を除く A 類疾病を調査対象としました。さらに、生年別接種完了率の算出の更なる精度向上のため、算出方法の変更を行いました。算出方法の変更についての詳細は、P2「2 対象」—「(3) 対象人口」及び P3「3 算出方法」—「(2) 各予防接種の生年別接種完了率の算出」をご参照ください。

令和 5 年度における予防接種の変更点については、4 種混合ワクチン (DPT-IPV) の 1 期初回接種の開始月齢が生後 3 月から生後 2 月に拡大されました。本年度調査において、4 種混合ワクチン (DPT-IPV) の 1 期初回接種の標準的な接種期間 (生後 2 月から 12 月) に最も合致する生年は令和 5 年生であり、接種完了率は 1 回目 100.0%、2 回目 96.2%、3 回目 86.2%となりました。昨年度調査時点における、同接種期間に相当する令和 4 年生の接種完了率 (1 回目 97.2%、2 回目 88.0%、3 回目 77.4%) と比較すると、1~3 回目すべてにおいて上昇しました。これは、接種開始月齢の拡大に伴い、予防接種の早期接種化が進んだことが影響した可能性も考えられます。

一方、令和 6 年には当県において 3 年ぶりに麻しん患者の発生が確認されました。令和 7 年には、ベトナムなど麻しん流行国からの輸入事例や二次感染事例が県内においても報告されており、県内における感染伝播事例の増加が懸念されます。国立感染症研究所が公表している麻しん風しん定期予防接種実施状況の調査結果によると、平成 22 年度以降令和 2 年度まで全国の第 1 期麻しん風しんワクチン接種率は目標とする 95%以上でしたが、令和 3 年度の接種率は第 1 期が 93.5%、第 2 期が 93.8%と目標の 95%に達しない状況とされています。当該調査によれば、本県の麻しん風しんワクチン接種率は、平成 30 年度が第 1 期 98.0%、第 2 期 94.4%であったのに対し、令和 3 年度の接種率は第 1 期が 92.4%、第 2 期が 94.1%となっており、第 1 期を中心に目標の 95%を下回る状況となっています。それに対して、今回報告するこの調査結果の接種完了率で細かく現状を見てみると、令和 4 年度調査 (令和 3 年度接種者が調査対象) における麻しん風しんワクチンの接種完了率は 1 期 94.9% (令和 2 年生まれ児)、2 期 94.3% (平成 27 年生まれ児) であり、麻しん風しん定期予防接種実施状況調査の接種率と

比べると接種完了率はやや高めですが、95%を下回っています。流行国からの来県者数や帰国者数の増加がみられる今日、麻しん風しんワクチンの接種完了率の更なる向上が期待されるところです。本調査の接種完了率の数値を参考にいただき、麻しん風しんワクチン以外の VPD（ワクチンで予防可能な感染症）も含め、県内において予防接種事業を通じた感染症予防対策をより効果的に推進していただければ幸いです。

最後になりましたが、予防接種事業を推進するにあたり、御尽力をいただいております各関係機関の皆様方、データ報告の御協力をいただいております各市町村の担当者の皆様に深く感謝し、心からお礼申し上げます。日頃各機関で実践されている予防接種事業の確認やその課題と評価に当たり、「令和6年度埼玉県予防接種調査資料集」を御活用いただければ幸いです。